

軽井沢町版レッドデータブック策定検討部会（第5回） 会議録

1. 開催日時 令和8年2月10日（火）
10:00～11:25
2. 開催場所 軽井沢町役場 2階 第3・4会議室
3. 出席者
委員：部会長、A委員、B委員、C委員、D委員、
E委員、G委員、（F委員、H委員欠席）
オブザーバー：自然保護審議会会長
理事者：副町長
事務局：事務局A、事務局B、事務局C、事務局D
受託者：受託者A、受託者B、受託者C

4. 協議事項

- (1) 会議、現地調査及び情報収集の進捗状況について
- (2) レッドデータブック及び概要版の構成等について
- (3) 令和8年度 観察会の実施内容について
- (4) その他

5. 傍聴人数 1名

6. 議事内容 以下のとおり

1. 開 会

【事務局A】(●●●●●●)

皆様、ご多忙のところご出席いただきありがとうございます。【事務局A】(●●●●●●)です。本日の会議冒頭の進行を務めさせていただきます。よろしくお願いいたします。それでは定刻となりましたので、ただいまから軽井沢町版レッドデータブック策定検討部会を開催いたします。

本部会は、軽井沢町自然保護審議会条例第8条第6項の規定により、同条例第6条を準用します。委員9名のうち7名が出席しており、同条例第6条第2項に定める定数を満たしておりますので、会議は成立いたしました。

また、本日は【自然保護審議会会長】(●●●●●●●●●●)に、オブザーバーとしてご参加いただいております。

続きまして、事務局より傍聴の制限について報告いたします。

【事務局B】(●●●●●●●●)

【事務局B】(●●●●●●●●)でございます。本日はよろしく
お願いいたします。はじめに、本日の傍聴者は1名です。報道関係者
の傍聴はありません。

傍聴にあたりましては、本会議が委員各位の理解に基づき公開で実
施されている趣旨を尊重いただき、整然と傍聴くださいますようお願い
いたします。あわせて、委員の自由闊達な議論及び円滑な議事進行
にご協力をお願いいたします。また、本部会では個別の情報を含む発
言や、継続審議中の事項も取り扱います。個人情報を含むものもあり
ますので、内容の取扱いには十分ご注意ください。

さらに、本部会では町内の生物情報(希少種を含む)を扱っていま
す。希少種に指定されている種に限らず、生息状況に関する情報が外
部に流出した場合、盗掘・乱獲等に繋がるおそれがあります。この点
をご認識の上、会議外での発言やSNS等での発信は控えていただきま
すようお願いいたします。

配布資料は、個人利用の範囲でお持ち帰りいただけます。資料は整
理したうえで、公開可能なものについては後日、町ホームページで公
開します。資料の撮影やSNS等への掲載は行わないようお願いいたし
ます。

2. 副町長あいさつ

【事務局A】(●●●●●●●)

それでは、次第にそって進めさせていただきます。続きまして【副
町長】(小林 信嗣 副町長)よりご挨拶を申し上げます。

【副町長】(小林 信嗣 副町長)

皆さん、おはようございます。本日はお忙しい中、ご出席いただき
ありがとうございます。

本日は前回に引き続き、令和8年度に開催する観察会が議題となり
ます。観察会の実施を通じて、町内の生き物への興味・関心を持つ方
が増え、町全体として自然環境の保全を進めていく基盤づくりに繋が
ればと考えております。より良い形で実施できるよう、皆様のご意見
を賜れば幸いです。本日の部会が有意義なものとなりますようお願い
い申し上げ、挨拶といたします。

【事務局A】(●●●●●●●)

よりご説明をお願いいたします。

【事務局B】(●●●●●●●●)

まず、事務局から一点お詫び申し上げます。委員の皆様には、これまで調査会議や調査専門部会にご出席いただき、さまざまな検討にご協力いただきありがとうございました。本日の議題は、これらの会議で扱った内容と重なる部分が多く、結果として同じような内容の会議となってしまう点について、お詫びいたします。

ただし、来年度以降は、本部会と調査会議・調査専門部会の役割をより明確に整理し、区分して運営していく予定です。今回は一時的に内容が重複しているものとして、ご理解いただけますと幸いです。よろしくをお願いいたします。

【受託者A】(●●●●●●●●●●●●●●●●)

【受託者A】(●●●●●●●●●●●●●●●●)です。資料1についてご説明します。これまで調査会議や調査専門部会に参加されている方は進捗をご存じかと思いますが、本日はそれ以外の方もいらっしゃるため、これまでの経過を簡単にまとめています。

■ 会議の開催状況

本事業では、「策定検討部会」「策定調査会議」「調査専門部会」の3つの会議体で検討を進めています。

策定検討部会では、レッドデータブック及び概要版の内容検討を中心に、周知に向けたイベントや講演会等の企画・検討を行ってきました。観察会もその一つであり、最終的には全体の意思決定を行う会議体と位置付けています。

策定調査会議は、調査専門部会（植物・脊椎動物・無脊椎動物の3分類群）を束ねる上位会議として、調査やレッドリスト作成等を含む全体の取りまとめを行ってきました。

夏以降、多くの会議に参加いただき、調査の進め方、情報整理の方法、レッドデータブックの内容などについて、それぞれ検討を重ねてきました。

■ 資料収集整理・ヒアリング

会議体のメンバー以外の方々にも協力をお願いし、資料提供や意見聴取を進めています。軽井沢町に生息する種について、できる限り網羅的な目録を作成したうえで、その中からレッドリスト掲載種を選定

る基礎資料となります。

科学的な調査結果を踏まえ、長期的に見守っていくための基盤資料であるとともに、行政的には、生息確認地点の把握・地図化を通じて、開発等への対応を検討する際の資料としても活用することを想定しています。さらに、地域連携や普及啓発の観点から、町民の皆さんが軽井沢町の自然環境を知るための入口となる資料としても位置付けています。

■ レッドデータブック本体の目次構成案

資料2 ページ目では、本体の目次構成案を示しています。前回から大きな変更のご意見はなかったため、基本的に同様の構成としています。

- ・ 第1章：レッドデータブックの概要（位置付け・見方等）
- ・ 第2章：軽井沢町の自然環境の特徴
→長野県内でも特徴的な要素があるため、情報収集を進めつつ整理していく予定です。
- ・ 第3章：全種目録に基づく特徴の整理・紹介
→例として「アサマ」と名の付く種など、軽井沢に由来のある生き物の紹介、外来種の紹介も盛り込む方向で検討しています。
- ・ 第4章：レッドリスト掲載種の解説（種ごとの説明を含む）
- ・ 第5章：重要な環境・景観、重要地域の整理
→種だけでなく、軽井沢町の重要な環境・地域にも着目して記載してはどうか、という提案に基づく構成です。
- ・ 資料編

■ 掲載する分類群

掲載対象とする分類群についても、これまで丁寧に議論してきました。現時点では以下の方針で進めています。

- ・ 植物：シダ植物・種子植物を基本とし、コケ類・地衣類・菌類・藻類なども、可能な範囲で掲載する。
- ・ 植物群落：重要度評価を含め、選定を試みる方向。
- ・ 脊椎動物：哺乳類、鳥類、爬虫類、両生類、淡水魚類。
- ・ 無脊椎動物：昆虫類を中心に、その他の無脊椎動物も掲載する。

■ 種の情報と分布図の表示方法

種の解説（図鑑的要素を含む）について、どのような内容を記載するかは概略を整理し、これまで確認を進めてきました。

また、分布情報の表示方法については、会議でも意見が多く出た点です。希少性評価や保全対策の検討、注意喚起の観点では詳細な位置情報が必要となる一方、普及啓発を目的とした本体掲載図では、盗掘等のリスクへの配慮が必要という意見もあります。

そのため、詳細情報はポイント表示やメッシュ表示等で整理する案と、公表用は地区名などに集約して示す案があり、方向性の整理は進んでいます。最終的には、調査結果を実際に図示したうえで決定することを想定しており、現時点では「案として整理している段階」です。

■ 概要版の作成

本体は相当な分量になる可能性があるため、主要なトピックや特に普及啓発したい内容を抽出した概要版を作成します。本体の要約に加え、軽井沢町の自然環境の特徴や重要点を分かりやすく伝え、種の紹介を通じて自然環境への関心を高める「入口」となる資料を目指します。

概要版は、環境基本計画の概要版等のように子ども向けのテイストを想定しており、デザイン案ができ次第、本会議体を中心に相談・確認いただく流れになる見込みです。

■ 参考資料（写真・航空写真）

資料2に加え、参考資料として航空写真及び過去の環境変遷を示す資料を用意しました。軽井沢町がデジタルアーカイブしている昔の写真の中から、環境の様子が分かるものを一部抜粋して掲載しています。また、航空写真については、古いものでは1948年頃に米軍が撮影した写真から最近のものまで、4時期分を並べて整理しました。

印刷では分かりづらい部分もありますが、1970年代頃までの写真では、町全体に草地が広く見られることや、南軽井沢で湿地環境が広く分布していたことなどが読み取れます。こうした資料も活用し、町民の皆さんが環境の変遷を知り、興味・関心を持つきっかけづくりに繋がりたいと考えています。

資料2の説明は以上です。

【部会長】（●●●●●●●●●●）

ありがとうございました。ただ今ご説明ありました内容について、委員の皆様から何かご質問、ご意見等ありますか。

【G委員】(●●●●●●●●)

資料2の3ページ目(対象分類群)について確認です。掲載する分類群の掲載順序は、分類学上の標準的な分類順に沿って並べる想定でしょうか。それとも、資料に記載されている現在の並び順(植物→脊椎動物→無脊椎動物等)を、そのまま掲載順として採用する想定でしょうか。どちらを予定されていますか。

【受託者A】(●●●●●●●●●●●●●●●●)

掲載順については、大枠をどのような項目立てで整理するかによります。特に植物は、最終的にどの分類群をどの程度掲載するかが確定した段階で、括り方を変更する可能性があります。

例えば、種子植物とシダ植物を「維管束植物」としてまとめ、1つのリストとして示す方法も考えられます。また、コケ類、地衣類、菌類、藻類について、どこまで掲載できるかによって、まとめ方や示し方は変わる見込みです。

一方、脊椎動物と無脊椎動物については、一般的な並べ方(進化の歴史に沿った順序など)に基づいて掲載するのが通常であるため、基本的にはそのような順序立てで整理する想定です。

【G委員】(●●●●●●●●)

承知しました。

【部会長】(●●●●●●●●)

その他、何かございますか。

【B委員】(●●●●●●●●)

概要版について提案です。本日、受託者の方にもお渡ししましたが、【団体A】(●●●●●●●●●●●●)が以前発行した『もう一度見たい軽井沢の草原・湿原』には、昔の暮らしの中で人々がどのように自然と関わっていたかが分かる記述があります。その内容を、子供たちにも分かりやすいように、小さなコラム等として概要版に盛り込み、現在との違いが伝わるようにエピソードとして示していただけたらと思います。

【受託者A】(●●●●●●●●●●●●●●●●)

資料をご提供いただき、ありがとうございます。内容を確認したところ、例えば軽井沢の土地利用図は、過去からの環境変遷が整理され

ており、面積割合も含めて整理されていきました。こうした情報は、レッドデータブック本体または概要版の中で、ぜひ活用させていただきたいと考えています。

また、ご紹介いただいた『もう一度見たい軽井沢の草原・湿原』についても、まだ概観した段階ですが、貴重な聞き取り内容が収録されているほか、「アサマ」と名の付く植物なども整理されていきました。これらも参考にしながら、軽井沢の特徴や過去の変遷を整理する際の資料として活用させていただければと思います。よろしく願いいたします。

【部会長】(●●●●●●●●)

【団体A】(●●●●●●●●●●)がニュースレターで連載している「昔の軽井沢の暮らし」に関する記事も、興味深い内容が多く掲載されていますので、あわせて参考にされるとよいと思います。

他にご意見はありますか。では、私から一点申し上げます。資料2の2ページ目、目次構成案の「第2章 軽井沢町の自然環境の特徴」についてです。前回の会議でも、【H委員】(●●●●●●●●)や【G委員】(●●●●●●●●)から発言があったかと思いますが、軽井沢では草原の歴史が長かったこと自体が重要な特徴です。その歴史があるからこそ、現在の生き物相が形成されている面もありますので、草原の歴史を章立ての中に位置付けていただければと思います。

資料内にも「湿原・草原」という言葉は複数箇所に出てきますが、例えば1ページ前の「軽井沢町の特性、レッドデータブック作成の背景」にある「高原性湿原」とは別に、草原の歴史や背景を整理する項目があると、より分かりやすいのではないかと考えます。草原性の動植物が減少しているという現状もありますので、その点が項目として目につく形で示されるとよい、という個人的な意見として申し添えます。

以上です。他にどなたかご意見はありますか。

【G委員】(●●●●●●●●)

レッドデータブック(本体)に関する提案です。絶滅危惧種の紹介に加えて、キーストーン種もいくつか取り上げられるとよいのではないかと思います。

キーストーン種は、その種が生息していることで、絶滅危惧種を含む多様な生物が生息できる環境が維持されるなど、生態系の状態を示す目安となり得ます。こうした観点の種も紹介できると、内容がより

分かりやすくなると考えます。

【部会長】（●●●●●●●●●●）

何か軽井沢町に生息する該当種で、1つでも例として挙げられますか。

【G委員】（●●●●●●●●●●）

トラマルハナバチなどでしょうか。

【部会長】（●●●●●●●●●●）

ありがとうございます。その他にご意見はありますか。

【B委員】（●●●●●●●●●●）

資料2の2ページ目、「第2章 軽井沢の自然環境の特徴」について意見です。現在、「土地利用の特徴（別荘地が多い、観光地）」と記載されていますが、冷涼な気候の中で農業生産に取り組んできた歴史についても、一言入れていただくと、地元の方にとっても意義があるのではないかと思います。

特に、軽井沢町の住民が開発した「保温折衷苗代」は、農業の教科書にも記載されるような事例であり、軽井沢の地域性を示す重要な要素として取り上げてほしいと考えます。

あわせて【副町長】（小林 信嗣 副町長）にお願いします。軽井沢の資料館において「保温折衷苗代」に関する展示が十分に見当たらない印象があるため、教育委員会等と相談のうえ、展示として取り上げることをご検討いただけないでしょうか。

なお、軽井沢町長倉には大きな石碑がありますが、現状ではそれのみです。レッドデータブックとは直接関係しない点も承知していますが、地域の歴史として重要だと思しますので、ぜひ対応をお願いします。

【副町長】（小林 信嗣 副町長）

名誉町民にもなっている「荻原豊次さん」に関する件ですね。私も現時点ではその程度の知識ですが、教育委員会など所管部署に確認してみます。承知しました。

【D委員】（●●●●●●●●●●）

資料2の2ページ目「第5章 重要な環境・景観及び重点地域」に

ついて意見です。植物群落の取り扱いは、これまでの調査専門部会等でも検討中とされてきましたが、来年度は調査を本格化する予定であり、掲載方法についても決めていく必要があります。

そのため、遅くとも来年度の早い段階で、植物群落をどのように掲載するかについて一定の方針を定め、来年度に複数回予定される策定検討部会でも、最終的な構成として示せるよう、工程を確認しながら議論を進めていく必要があると考えます。まずは、その工程の確認をお願いしたいです。

また、資料2の5ページ目「概要版」について確認です。現在は構成案として示されていますが、概要版は基本的に紙媒体で配布することを想定しているのでしょうか。近年は、子供たちに紙資料が配られる機会が減り、学校ではタブレット端末等を通じたデジタル配布も増えている印象があります。紙に加えて、デジタルでの配布も含めて作成する想定があるのか、教えていただければと思います。

【部会長】(●●●●●●●●)

ご意見を2点いただきました。まず、植物群落の取り扱いについてです。掲載方法は調査計画にも関わるため、来年度の早い段階、できれば春早々に方針を決める必要があるというご指摘でした。

そこで確認ですが、植物群落の掲載方針について、春早々に決定することは可能でしょうか。

【受託者A】(●●●●●●●●●●●●●●●●●●)

植物群落の掲載については、これまで「植物群落を単独の構成として扱うのか」、あるいは「重要な環境等を整理する中で植物群落も含めて扱うのか」という点を中心に議論を継続してきました。

先日の2月4日の調査会議では、【事務局D】(●●●●●●●●●●●●●●●●●●)から、植物群落については基本的にレッドリスト(あるいはそれに準じる整理)として、対象となる場所を選定し、ランク付けもできる方向で進めたいという大きな方針が示された、という理解です。

今後は、調査内容も含め、どのような資料整理が必要かを整理したうえで、【事務局D】(●●●●●●●●●●●●●●●●●●)と調整しながら進めていく形になると考えています。

また、そこで整理された内容は、いずれにしても「重要な環境」等を整理する章の中でも活用されるものになる、という理解で現時点では考えています。

【部会長】(●●●●●●●●)

【事務局D】(●●●●●●●●●●) から、何か補足はありますか。

【事務局D】(●●●●●●●●●●)

本件については、先ほど【受託者A】(●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●) から説明があったとおりの流れで進めていきます。そのうえで、できるだけ今年度中に具体的な調査計画を詰め、シーズン開始早々から現地調査に着手できるよう準備を進めていきたいと考えています。

【D委員】(●●●●●●●●)

植物群落を掲載することになれば、県内の他市町村のレッドデータブックには見られない大きな特徴になると思います。軽井沢町版としての位置付けを明確にしたうえで取り組んでいければと期待しています。

【部会長】(●●●●●●●●)

ありがとうございました。続いて、もう一点のご質問です。概要版について、紙媒体で配布する資料を想定しているのか、それともデジタル配布も含めて作成する想定があるのか、という点でした。

【事務局C】(●●●●●●●●)

概要版については、紙媒体の資料も作成する予定です。ただし、配布はデジタルを中心とする想定のため、印刷部数は多くはありませんが、準備する予定です。

【部会長】(●●●●●●●●)

はい、ありがとうございます。部数はある程度、予算の中で決まっていますか。

【事務局B】(●●●●●●●●)

本体の印刷部数は100部、概要版は400部を予定しています。

【部会長】(●●●●●●●●)

ありがとうございました。ちなみに、軽井沢町内の小中学生の人数はおおよそどのくらいですか。

【事務局 B】(●●●●●●●●)

数年前のデータになりますが、軽井沢町の小学校 3 校の児童数を合計すると約 1,000 人です。現在も大きな変動はないと考えています。

【部会長】(●●●●●●●●)

ありがとうございました。そうすると、中学生はその半分の 500 人程度という見当でしょうかね。

【事務局 B】(●●●●●●●●)

はい、500 人前後という想定になります。

【B 委員】(●●●●●●●●)

概要版の配布方法（デジタルと紙）について意見です。フィンランドのようにデジタル教育が進んだ国でも、紙で学習しないと子どもたちの理解や記憶の定着が十分に進まない、という研究結果があると聞いています。

そのため、概要版については、例えば中学 1 年生になったタイミングで全員に配布（プレゼント）するといった形を検討できないでしょうか。そうすれば必要部数を抑えられますし、中学 1 年生であれば小学校での学習を踏まえて内容も理解しやすいと思います。

また、レッドデータブックの改訂はおそらく 10 年後程度になると想定されるため、今後 10 年間に中学 1 年生になる人数を見込み、その人数分を印刷して確保しておくという考え方も可能ではないかと思えます。人口動態によって増減はあり得ますが、現時点のデータを基に概算はできると思いますので、検討をお願いしたいです。

【部会長】(●●●●●●●●)

ありがとうございました。本日この場で部数を決定するわけではありませんが、いただいた情報やご意見を踏まえ、今後検討を進めていただければと思います。

他にご意見はありますか。

【A 委員】(●●●●●●●●)

【B 委員】(●●●●●●●●)のご意見については、概要版を副教材のように活用する方向で検討するのがよいと感じました。

続いて、本体の構成案について意見を 2 点述べます。

■ 作成の背景・課題の整理

レッドデータブックを作成することになった背景や課題について、できるだけ流れが分かる形で整理して記載してほしいです。なぜ軽井沢でこの取組が実現したのかが分かると、他の自治体が同様の取組を進める際にもとても参考になります。記載できる範囲で、事情や課題をできるだけ丁寧に書いていただきたいと思います。

■ 運用・更新の方針の明記

現状の構成案には、レッドデータブックとしての運用に関する記載が見当たりません。例えば、更新をいつ行うのかといった方針が明確でないと、次回改訂が進めにくくなる懸念があります。運用・更新の考え方や、町としてレッドデータブックをどのように活用していくのかといった方針を含め、章を新設することも含めて、本体に記載した方がよいと考えます。

【受託者A】(●●●●●●●●●●●●●●●●)

ご指摘いただいた運用・更新に関する点は、先ほどの「10年程度で見直すのではないか」という話題とも関連する内容だと受け止めています。この点については、軽井沢町としっかり相談しながら整理していきたいと考えています。

どこまで本文に書き込むかは今後の検討になりますが、レッドデータブックの使い方・活用の仕方に加え、例えば本書を基にデータを継続的に蓄積し、モニタリングを行うための基盤とする、といった位置付けも記載できればよいと考えています。

記載する章や配置についても、町と相談のうえで検討し、整理していきます。

【部会長】(●●●●●●●●)

運用・活用に関する記載は、独立した形で整理する必要があるかもしれません。他の自治体や行政担当者が参考にしやすいよう、章立てや構成を今後工夫していければと思います。ありがとうございました。

それでは、他にご意見はございますでしょうか。

【B委員】(●●●●●●●●)

【副町長】(小林 信嗣 副町長) への要望です。レッドデータブックを作成し、希少種の分布などの情報が得られても、それが町や民

間事業者の行動に反映されなければ意味が薄れてしまいます。日常の暮らしや事業活動の中で配慮しながら進めていく仕組みが必要だと考えます。

その点で、【A市】(●●●●)では「生物多様性アドバイザー制度」を設けており、教育委員会の所管のもと、文化財保護法の枠組みの中で、文化財の対象に動植物も含めて捉える考え方を採っています。ミティゲーション(影響回避・低減等)を行う際にも参考になる制度だと思います。

については、レッドデータブックの作成と並行して、軽井沢町でも同様の「生物多様性アドバイザー制度」を設けられないか、検討していただきたいです。

【副町長】(小林 信嗣 副町長)

承知しました。【A市】(●●●●)で実施している制度について共有いただいたので、環境課とも相談しながら、軽井沢町としてどのような形が望ましいか検討していきます。

【部会長】(●●●●●●●●)

他にご意見はございますでしょうか。

【A委員】(●●●●●●●●)

一点補足です。レッドデータブックを公開する際、情報公開の範囲を検討する必要があると思います。希少種の情報については、取扱いに十分配慮しながら整理すべきですが、それ以外にも、全種目録(フロラリスト、ファウナリスト等)を作成することになると考えられます。

これらについては、個人的には可能な範囲で公開した方がよいと思います。一方で、公開範囲をどこまでとするかは、今すぐ結論を出す必要はないとしても、今後検討しておくべき論点だと考えます。

【部会長】(●●●●●●●●)

ありがとうございました。この件については、今後の検討課題の一つとして、軽井沢町と受託者で協議しながら整理していく、という理解でよろしいでしょうか。よろしく願いいたします。

(3) 令和8年度 観察会の実施内容について

【部会長】(●●●●●●●●)

かを学ぶ構成を想定しています。講師は、【部会長】(●●●●●●●●●●) 及び【軽井沢町版レッドデータブック関連部会委員】(●●●●●●●●●●) に相談できればと考えています。

■ 【町施設】(●●●●●●●●●●●●●●●●) 周辺の観察会案

【町施設】(●●●●●●●●●●●●●●●●) 周辺●●●●●●●●●●がある場所)での実施を想定しています。人の手に関わり維持されてきた草原であること自体が貴重であり、残された草原に見られる昆虫や植物を観察しながら、草原の価値と、生き物と環境の関係性を理解してもらうことを狙いとします。

また、同地は文化財にも位置付けられているため、「草むらが文化財」と言われても分かりにくい点について、なぜ価値があるのかを解説し、軽井沢の重要な資産であることを伝える内容とします。

観察内容としては、草原性のチョウ・バッタなどの昆虫を観察し、昆虫が利用する植物(食草、蜜源)との関係にも触れることを想定しています。さらに、特定外来生物であるオオハンゴンソウが侵入している点にも触れ、影響や対応の必要性について解説する内容を検討しています。

講師案としては、当該地で観察会の実施経験があり詳しい【C委員】(●●●●●●●●●●)、ならびに【町施設】(●●●●●●●●●●)の【町職員】(●●●●●●●●●●)に相談できればと考えています。

■ 周知・スケジュール

周知方法として、広報掲載、町ウェブサイト、SNS、ポスター、チラシ配布(小学校等)を想定しています。実施時期によっては、早めに日程と内容の大枠を決めて周知に着手する必要があります。

本日、開催場所を含めて大枠の方向性が固まり次第、講師への相談を進め、詳細を詰めていきたいと考えています。

【部会長】(●●●●●●●●●●)

ありがとうございました。ただいまの説明内容について、委員の皆様からご意見・ご質問はございますか。

【C委員】(●●●●●●●●●●)

【町施設】(●●●●●●●●●●●●●●●●) 周辺について意見と確認です。まず実施時期について、資料では6～7月とありますが、早めに告知を行うのであれば、【町施設】(●●●●●)の場合は6月中旬過ぎ、

遅くとも6月下旬までに実施できるとよいと思います。7月以降もチョウ類は見られますが、観察してほしい貴重な種は6月中でないとうを過ぎてしまう場合があるためです。

また、草原性のチョウを観察するのであれば、熱中症対策の観点からも、午前中の比較的涼しい時間帯が適していると考えます。

あわせて確認ですが、当日が雨天となった場合、屋内プログラムに変更するのか、あるいは日程を改めて晴天日に再実施するのか、現時点でどのように想定されていますか。

【受託者A】(●●●●●●●●●●●●●●●●)

雨天時の対応については、町及び講師とも相談しながら決めることになると考えています。現地で雨に濡れると体力を消耗し、参加者にとって負担が大きくなる場合もあるため、その点も踏まえて検討したいと思います。

【C委員】(●●●●●●●●)

承知しました。実施時期は梅雨と重なる可能性があるため、雨天時の対応は屋内実施と延期の両面で想定しておく必要があると思います。

また、告知内容に関する要望です。当該地は湿性草原であり、晴天が続いた場合でも場所によっては大きな水たまりができることがあります。そのため、持ち物として天候にかかわらず長靴を持参することを、事前案内に明記していただきたいと思います。

【部会長】(●●●●●●●●)

ありがとうございます。他にご意見はありますか。

【地区】(●●)については、多様な生き物がいるため、焦点を当てる対象によって適した時期が変わります。一方で、どの時期に実施しても、何らかの観察対象の生き物は確保できると考えられます。そのため、広報のしやすさ、学校行事の状況、講師の都合などを総合的に勘案して検討していただければと思います。

また、【地区】(●●)で昼間に実施する場合は、熱中症リスクが6月頃から想定されるため、日中の時間帯は避けるべきです。例えば、夕方の涼しい時間帯から開始し、カエルが鳴き始める時間帯まで実施するなどの案も、検討課題として考えられます。

観察対象については、身近な魚類や●●●●●●●●は時期の影響が比較的小さい一方、トンボやハチなどは時期の影響も受けるため、タ

ーゲットを明確にしながらか実施時期を決めていくことになると思います。

【B委員】(●●●●●●●●)

子供が小さい頃は、自宅前の道路で指を立てているだけで赤とんぼが止まるほど、赤とんぼが多かった記憶があります。

【地区】(●●)の農耕地で、生き物調査の要素も含めてトンボ類に焦点を当てた観察会を行うとした場合、実施時期としては何月頃が適しているのでしょうか。

【部会長】(●●●●●●●●)

【地区】(●●)で代表的な絶滅危惧種としては、●●●●●●●●が挙げられます。出現期は7月に入ってからです。7月末頃になると、次第にハグロトンボが見られるようになりますが、ハグロトンボは比較的一般的な種だと認識しています。

また、田んぼ周辺ではトンボ類が複数種確認され、出現時期が短い種もいれば、長い期間見られる種もいます。

【G委員】(●●●●●●●●)から補足等がありますか。

【G委員】(●●●●●●●●)

【地区】(●●)では、●●●●●●●●は比較的に見られると思います。時期としては6月頃が想定されます。他に●●●●●●●●も見られる可能性があります。●●●●類は7月頃から羽化が始まるのではないかと思います。夏の間は林縁などで観察できるのではないのでしょうか。

一方、流水性の●●●●類についてはこちらは情報が少なく、現時点でははっきり分かりません。●●●●●●●●や●●●●●●●●は黄昏活動性のため、その時間帯に観察した経験がなく、出現状況は不明です。●●●●●●●●については、むしろ秋の方が適している可能性があります。

全体として、季節によって観察できるトンボの種類が入れ替わっていく印象があります。

【部会長】(●●●●●●●●)

ありがとうございます。【B委員】(●●●●●●●●)がお話しされた「トンボがたくさん止まる」状況は、アキアカネ等で条件がうまく重なると起こり得るのだと思いますね。

近い環境を対象としており、これ自体に全く異論はありません。一方で今後は、浅間山をはじめとする山岳域の植生や、森林域にも注目した講座等を検討してはどうかと思います。レッドデータブックとの関連では、ニホンジカ問題も重要性が高まっているため、こうしたテーマも取り上げられるとよいと考えます。

【部会長】(●●●●●●●●)

ありがとうございました。観察会はあくまでレッドデータブックの取組と関連付けて実施するものですので、その点が伝わるような周知の方法をお願いしたいと思います。内容についても同様に、我々講師側としても、レッドデータブック策定の意義や目的が伝わるように発信できる観察会にしていきたいと思います。

【事務局B】(●●●●●●●●)

ご指摘のとおりかと思います。観察会の開催を広報する際は、レッドデータブックとの関連性を明確にし、紐付けを強調したうえで周知していきます。

また、観察会等の普及啓発活動については、レッドデータブック策定後も継続して実施していく予定です。今年度も、レッドデータブックの観察会とは別に類似のイベントを開催する予定があり、今後もそうした取組を継続していく予定です。

(4) その他

【部会長】(●●●●●●●●)

最後の議題に移ります。協議事項(4)「その他」について、事務局から何かございますでしょうか。

【事務局C】(●●●●●●●●)

町からお知らせです。軽井沢町版レッドデータブックの取組については、すでにホームページ等で広報を開始していますが、今後「広報かるいざわ」3月号にも、レッドデータブックを作成している旨を掲載する予定です。

その後も、町の生物への興味・関心を高めていただけるような記事やレッドデータブック策定の取組状況などを、定期的に掲載していく予定です。

なお、委員の皆様には、インタビュー等で記事作成へのご協力をお願いする場合がありますので、よろしくお願いいたします。

【受託者 A】(●●●●●●●●●●●●●●●●)

資料 4 として、令和 8 年度のスケジュールを簡単な表で示してあります。あくまで概要ですが、令和 8 年度は中間年であり、調査・整理とともに本番の年度になる見込みです。

会議の回数も多めに記載していますが、今後の調整により変更となる可能性があります。

■ 令和 8 年度（調査・選定の本番）

- ・ 現地調査：春から秋にかけて、町内全域で本格的に実施します。状況により冬季にかかる可能性もあります。
- ・ 既存資料・文献整理：現地調査と並行して、既存資料や文献に掲載されている種の整理を進めます。
- ・ 種リスト作成とレッドリスト選定：現地調査結果と既存資料を統合して町内の生物種リストを作成し、それを基にレッドリスト掲載種の選定作業を同時並行で進めます。令和 8 年度は多忙な年度になることを想定しています。

また、年度末には、レッドリスト掲載候補種を一度公開し、パブリックコメントを実施することを予定しています。最終案として固まった段階で実施する方法もありますが、早い段階で「こうした種がいる」という情報に対する意見を得た方が有益ではないか、という事務局内の考えもあり、現時点では令和 8 年度末に意見照会を行う方向で検討しています。

加えて、本日議論した観察会については、春から秋にかけて 2 回開催する予定です。

■ 令和 9 年度（原稿作成・とりまとめ）

最終年となる令和 9 年度は、固まりつつあるレッドリストをさらに精査するとともに、レッドデータブック本体及び概要版・普及版の原稿執筆を進めます。

併せて、現時点ではイベント 1 回と講演会 2 回を予定していますが、実施時期は前後する可能性があるため、来年度の策定検討部会で議論しながら調整していくことになるかと考えています。よろしくお願いいたします。

【A 委員】(●●●●●●●●●●)

令和 8 年度に予定しているパブリックコメントについて確認です。

【D委員】(●●●●●●●●)

【A県】(●●●)でもレッドリスト改訂作業を進めていますが、パブリックコメントは、レッドリスト案ができた段階で、カテゴリ付けしたリストを提示し、意見をいただく形でこれまで実施してきました。現在改訂中のレッドリストについても、時期は未定ですが、基本的にパブリックコメントの実施を想定しています。

実施結果としては、【A委員】(●●●●●●●●)の指摘のとおり、専門家・詳しい方がすでに作業に関与しているため、一般の方や県民から得られる意見は非常に限られるのが実情です。カテゴリの妥当性判断には一定の知識が必要であり、意見数は多くありませんでした。ただし、意見がゼロではなかったため、寄せられた意見を専門家委員会へ戻し、再確認や調整を行う材料として活用したことはあります。

町版のレッドリスト・レッドデータブックでは、何を聞き、何をフィードバックするのが重要であり、その点は【A委員】(●●●●●●●●)の意見に同感です。時間を掛けられるのであれば、実施内容は精査したうえで検討するのがよいと思います。

なお、仮にカテゴリ付けしたリスト自体をパブコメ対象とする場合、町内に限定すると意見を頂ける方がかなり限られる可能性があります。そのため、県内の研究者団体なども含め、町外の方にも確認いただくなど、より広い範囲から意見を得る形を想定した方がよいのではないかと思います。

【部会長】(●●●●●●●●)

ありがとうございました。ご意見は承りました。今後の検討に活かしていただければと思います。

【受託者A】(●●●●●●●●●●●●●●●●)

パブリックコメントの実施方法については、今後も相談しながら検討していきたいと考えており、次回以降の会議でも改めてご相談できればと思います。

また、令和9年度に予定している「イベント」については、まだ詳細は固まっていませんが、町民参加型の生き物調査のような形も想定しています。

そのため、年度末に予定しているパブリックコメントとも連動させ、候補種リストを提示したうえで、「リストに載っている生き物を見かけたなら知らせてほしい」といった形で、町民からの反応（例えば写真

と考えたことが、前倒し検討の発端です。

一方で、本日頂いたご意見も踏まえ、早めを実施する場合であっても、何を意見照会するのか、聞きたい内容を明確にしたうえでパブリックコメントを実施していきたいと考えています。よろしくお願いいたします。

【部会長】(●●●●●●●●)

ありがとうございました。それでは、他にご意見がないようですので、本日の議題は終了といたします。進行を事務局にお返しします。

5. 閉会

【事務局A】(●●●●●●●)

部会長、議事進行ありがとうございました。以上をもちまして、軽井沢町版レッドデータブック策定検討部会を終了いたします。皆様、ご協力ありがとうございました。

以上